

2023 年度明建会賞

2023 年度の受賞者と受賞業績はつぎのとおりです。おめでとうございます。

塚本 貴文さん 『建築批評にかかわる対外的な表現活動』

森下 慧さん 『模型制作等を通じた新スポーツ施設「フロントウン生田」の周知貢献』



左：森下さん、中央：家室会長、右：塚本さん

受賞理由

塚本貴文さんは、社会政治環境と建築との関係、建築が持ちうる社会改革的な可能性について学部 4 年生の時から強い探求意欲を持っており、修士 1 年のときにゼミで展開されたベルリンの壁の工法・建設位置・近傍の生活などをテーマとする共同リサーチを独自にネットワークにまとめて SICF23 と Gallery 'R に出展しました。また、自身が独自に執筆した現代建築批評の論考を、第 7 回片岡安賞（日本建築協会論考コンクール）に応募し入選しました。この論考は現代の科学技術と建築表現がもちうる政治的意味を論じたものです。この論考は、北京の清華大学に留学中、コロナ禍による厳格なキャンパス・ロックアウトの環境を体験し、その過酷な状況のなかで執筆したことそれ自体も意義深いと考えます。こうした活動は明治大学理工学部建築学科の名前を高めるのに大きく貢献しました。

森下慧さんは、学部 4 年生の時から川崎市の生田浄水場用地を活用した川崎フロンターレの新スポーツ施設「フロントウン生田」の建設計画に関心を持ち、川崎市や地元町会で構成される連絡協議会の会合に参加するとともに、学生グループのリーダーとしてその施設及び周辺の模型を制作し披露してきました。また、昨年明治大学で開催された全国まちづくり会議では、「これからのスポーツ施設と災害対応」セッション担当の実行委員として準備・運営・記録に担ってきました。それらの活動は朝日新聞やタウンニュース、地域や大学の各種メディアに取り上げられてきました。こうした活動は明治大学理工学部建築学科の名前を高めるのに大きく貢献しました。